

私らしく あなたらしく



—— 休日の総合運動公園の風景 ——

ワーク・ライフ・バランスを考える シンポジウム

昨年の10月20日、川村学園女子大学女性学研究所主催のシンポジウム「ワーク・ライフ・バランスを考える」 仕事・子育て・ボランティア に参加しました。ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発などについて、自らが希望するバランスで活動できる状態」の事です。

このシンポジウムでは、以下のようなタイトルで3名の先生方がそれぞれの視点でお話をされました。

「ライフとワークのはざままで」 柚木理子
日本におけるワークとライフをつなぐ政策の変遷について

「保育サービスの充実と親の育ち」 野尻裕子
保育の立場から「子供の最善の利益の為に」
ワーク・ライフ・バランスはどうあるべきか？

「ボランティアのポテンシャル - 日英の歴史から - 」金沢周作
日本のボランティアの現状と高度福祉国家イギリス
との比較を交え、ボランティア領域を日本で拡大する
余地と可能性について

取材後の感想 :

初めて耳にする「ワーク・ライフ・バランス」・・・何か新しい、興味を注がれる響き。とは言え、日常生活では、かなりのハードルの高さも感じます。それは仕事だけでなく、家庭や地域生活でも望むように活動できる社会を一人ひとりが意識し、目指し、又努力することから始まるのではないかと思われました。

男女共同参画に関する体験記を募集し、厳正な審査の結果、以下の3作品が優秀作品と決定致しました。これらの作品は、本誌における男女参画の啓発事業で展示されます。又、市のホームページ上でも御覧いただけます。

中島 一浩 「高校時代の彼からはとても想像できない・・・」
鈴木 光治 「家事の協力と議論と」
金井 直美 「現代女性のふるまい考 から」

私だって あなただって

これからの、より豊かな男女共同参画社会を目指して、その先駆けとして頑張っている若者達の職場を訪ねました。

去年の4月から、女性消防士として働いている佐々木友子さんは現在、救急救命士を目指して勉強していらっしゃいます。

Q：この職業を選ばれたきっかけは？

A：小学生のときに怪我をして救急車で運ばれたのですが、救急車の中で不安な気持ちを安心させてくれた救急隊員の方に感動し、自分も救急隊員になりたいと思ったことです。

Q：仕事で印象に残っていることは？

A：初めての出勤のときは緊張しましたが、先輩達のきびきび動く姿を見てとても感動しました。またそのような尊敬できる先輩達に囲まれ、そこで働くことが出来ることを幸せに思います。

Q：職場は男女同じですか？

A：はい、体力には自信がありますが、やはり練習はきついです。でも早く一人前になって仕事を任せてもらえるようになりたいです。

Q：これから社会に出る女性に何か一言

A：まだ半人前ですからアドバイスなど出来ませんが、私が頑張ることで消防士を目指す女性が増えるとうれしいです。またその為にも頑張りたいです。



取材後の感想：

こちらの取材の依頼に、恥じらいを見せる初々しい佐々木さんですが、救急救命士を目指すその思いには、並々ならぬ意思の強さを感じました。きっと、とても頑張り屋さんです。



流山の保育所で保育士として働く、
`体操の得意なお兄さん` 秋谷美徳(あきやよしのり)さんを紹介します。

Q：この職業を選ばれたきっかけは？

A：大学時代に保育関係のボランティアを経験し、子供と接する楽しさや、仕事の喜びを知ったのがきっかけです。

Q：仕事で嬉しかった事、又大変だった事は？

A：子供たちの成長を身近に見た時など、とてもやりがいを感じます。
でも、初めてのミルクをあげたときは、とても戸惑いました。

Q：女性の職業と見られる職場で男性が働く事については？

A：最初の頃、特にお父さん方が男性の保育士に対して違和感を持たれた様でしたが、
日頃の様子を見て、すぐに理解をしてくれました。

Q：保育士としての仕事への姿勢について？

A：自分らしさをしっかり持って、女性の代わりというのではなくて、
男性としての自分を活かして、保育の仕事をしていきたいと思います。

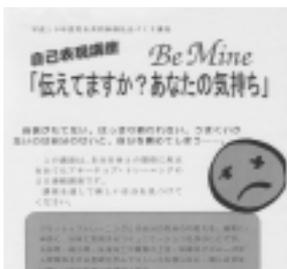
取材後の感想：

秋谷さんは、自分の得意な体操という
特技を生かした保育士という仕事を、
自分の天職と感じていらっしゃる様です。
又さらに、自分らしさを生かせる職業
として保育士という仕事があったと
。
スポーツマンで、子供たちに好かれる、
爽やかな秋谷さんのこれからの期待します。



小山保育園分園(フォレスト・キッズ・ガーデン)

アサーティブ講座



昨年11月、馬渡 静江氏(NPO法人ウィメンズカウンセリングちば)を講師にお迎えして「伝えてますか？あなたの気持ち」と題し、アサーティブ・トレーニング講座が行われました。アサーティブ・トレーニングとは、自分の気持ちや考えを誠実に、素直に、対等に表現するコミュニケーションを学ぶ事です。



アサーティブ講座・南流山センター

真の男女共同参画社会の実現の為には、夫婦のみならず、親子間、友達同士や、職場の上司・同僚とのスムーズな人間関係が不可欠と思われます。

講座終了後の質疑応答では、受講者の熱心な質問に、自分の体験も交えて誠実に、率直に、まさにアサーティブに答える講師の姿が印象的でした。

女性議会

1月30日、女性議会が流山市議会議場で開催されました。



これは、公募や市民団体の推薦などで選ばれた20人の女性が、市の執行部に一般質問を行う模擬議会で、流山市では初の試みです。

本当の議会では空席が目立つ傍聴席も、補助席を出すほどの盛況でした。

質問は子育て支援、教育、環境、まちづくりなどに関するものが多く「男女の性差に応じた医療の推進を」「平均的な年金で入所できる高齢者施設を」「駅前の送迎保育ステーションを増やすなど少子化対策の充実を」など具体的でよく考えられており、市長、教育長、担当部長などが、質問に対して丁寧に答弁していました。

取材後の感想

模擬議会ですが、今後の市政において活用できるものは十分反映されるとのことです。そして、市民が市政に対して関心を持つきっかけになる有意義な催しでした。

配偶者からの暴力でお悩みの女性は下記の相談窓口へ

相談窓口 (配偶者暴力相談支援センター)	
女性サポートセンター 043-245-1719 043-302-1015 24時間365日面接相談・専門相談(法律・健康)もあります。(要予約)	千葉県民共生センター 東葛飾センター 04-7140-8605 火9:30~20:00、水~日9:30~16:00 面接相談・カウンセリング・法律相談・こころの相談もあります。(要予約)
各健康福祉センター(DV専門相談) 電話相談 月~金 9:00~17:00 松戸健康福祉センター 047-361-6651 柏健康福祉センター 04-7167-2411 野田健康福祉センター 04-7124-6677	

この情報紙は「男女共同参画社会づくり講座」の受講生が企画・編集しました。ご意見、ご感想をお待ちしています。

発行：流山市企画財政部企画政策課男女共同参画室
 〒270-0192 流山市平和台1-1-1
 04-7150-6064 FAX 04-7150-0111

E-mail: danjokyoudou@city.nagareyama.chiba.jp
<http://www.city.nagareyama.chiba.jp/>

情報紙は町会、自治会のご協力で世帯に回覧していますが、公民館をはじめ市の施設でも配布しています。

編集後記

各種講座への参加や取材から、男性・女性にとらわれない男女共同参画社会づくりの大切さを学びました。

いろいろな考え方がある世の中ゆえに、正しい事をしっかり見つめる心の目は、大事にしていきたいものをつくづく思います。

編集委員： 池田・小野・金井
 ・多々良・佃・原